

学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】
(2年 金子文子)

私の住む千葉県船橋市東船橋地区では、約30年前に土地区画整理事業が行われ、地区計画の導入も後押しして、整然とした街並みと高い生活利便性を持つまちが形成された。
地元住民は「ここ数年で100人以上増えた気がする」と話しており、実際に調丁別人口データで増加傾向が見られ、地価も上昇している。人口が流入する郊外部がスプロール市街地となることを防ぐため、授業で学んだ通りに都市計画が行われ、良好な市街地が形

都市計画と不動産③

【学生のアピールポイント】
何気ない会話や日常の景色の中で、ちょっとした面白さを見つけるのが楽しみです。建築や美術にも関心があります。

成されており、その効果を実感した。

しかし都市計画を学んでいるからこそ、疑問も浮かんでくる。都市計画は、基本的に人口が増加する都市を対象として、都市環境が混乱することを防ぐ計画技術である。日本全体で人口減少が進んでいるのに、東京の近郊に位置する東船橋は人口が増えている。ということは、人口を失っている地域が他にあるということ。都市計画は都市近郊のスプロール化を抑えるが、都市近郊の人口を呼び寄せてもいる。日本全体ではゼロサムゲームであるから、結局どこかのまちの人口を奪う結果となる。競いあうのではなく自治体が共存を図る「広域連携型まちづくり」など、人口減少による空き家増や市中心市街地衰退などが生じている「シュリンキングシティ(縮小都市)」は先進国で広く見られる。この対策として、欧州では無駄に広がり自治体の財政を圧迫する都市施設やインフラを削減して、その地域の暮らしや仕事を支える持続可能なまちづくりを、公民が連携して進めることが重要となる。

成功の裏に残る「影」 競わず共存、広域連携まちづくりを

都市計画が成功すればするほど、中小規模の地方都市人口を奪ってしまう。都市計画の「光」としての成功の裏側には、人口の「奪い合い」という「影」が存在する一方で、東京一極集中が加速している。東京圏の雇用機会は圧倒的に多く、中

【教員による展開】
(小杉学教授)

日本全体で人口が減少する一方、東京一極集中が加速している。東京圏の雇用機会は圧倒的に多く、中

我が国の地方都市では、細かく細分化された土地に空き家がランダムに発生する「都市のスポンジ化」が進んでいる。そこでは、むしろ地域に分散する空き家を生かして、その地域の暮らしや仕事を支える持続可能なまちづくりを、公民が連携して進めることが重要となる。

成功の裏に残る「影」
競わず共存、広域連携まちづくりを

例として、明海大学が連携協定を結ぶ山形県上山市では、産官学の連携で運営するNPO法人かみのやまランドバンクが、空き家や空き地を魅力的な飲食店やイベント広場に再生させており、衰退した温泉街の魅力再創造を図っている。

するのではないか。人口を奪われる側では若者の流出や高齢化などが進行しているが、そこで都市計画を施しても人口を増やすことは難しい。仮に増やすことができたとしても、日本全体ではゼロサムゲームであるから、結局どこかのまちの人口を奪う結果となる。競いあうのではなく自治体が共存を図る「広域連携型まちづくり」など、人口減少による空き家増や市中心市街地衰退などが生じている「シュリンキングシティ(縮小都市)」は先進国で広く見られる。この対策として、欧州では無駄に広がり自治体の財政を圧迫する都市施設やインフラを削減して、その地域の暮らしや仕事を支える持続可能なまちづくりを、公民が連携して進めることが重要となる。